

事務局長 岡野 睦

彦根景観フォーラムでは、この一年、彦根の世界遺産登録に向けての第一歩を歩み始めました。

6月5日、世界遺産登録に向けて彦根シンポジウム「懐かしい彦根の街並み」の開催を皮切りに、彦根の民家をお借りした連続5回の公開講座「町家を生かす」の開催、8月の星空映画祭にて「青い山脈」の上映、10月には花しょうぶ商店街にある江戸期の町屋を改装して街の駅「寺子屋カ石」のオープン、11月の彦根シンポジウム「朝鮮通信使の足跡を辿る」&「ぶらっと彦根」の開催、12月から3月まで街の駅「寺子屋カ石」における「商人塾」連続講座の開催など各行事を始め、善利組組屋敷などの古民家の実測調査等、城下町の古民家データベースの作成に着手するなど数々の事業を展開しました。

また、広報誌「きらっと彦根」の1, 2, 3号を発刊するとともに、ホームページの再構築にも取り組みました。さらに、「日本の近世城下町の完成形」としての歴史的・普遍的な価値を継承・発展させるため市内の8地域を古民家博物館として世界遺産にむけた街づくりをした「世界の城下町彦根をめざして」を刊行しました。

そして、小学生が描いてくれた彦根景観フォーラムのかわいいマスコットの名前を募集、うだつをイメージした「うっづ」君に決定しました。

今から考えると、よくもこれだけのことが出来たと感慨深い思いがします。ひとえに会員諸氏のご協力と、各事業に参加していただいた皆様のおかげであり、何よりも、彦根景観フォーラムが、市民の皆様にご認知されてきたことが実感できうれしい限りです。

しかし、今の彦根は、街並みの崩壊・街の空洞化など、早急に対策を考えなければならないことが山積しています。美しい彦根の街並みの活性化を目指し、今まで以上に努力したいと考えています。

さて、5月よりは、彦根景観フォーラムの新年度です。世界の城下町彦根をめざして、従来の事業の継承は勿論のこと、彦根城築城400年祭に向けての新たな企画も提案していきたいと考えています。勿論その中には、第2, 第3の力石への挑戦や、持続的な経営手法の開発など問題は山積しています。

皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。



6月：「懐かしい彦根の街並み」 & 市民ワークショップ



7月：連続講座「町家をいかす」 8月：星空映画祭



10月：街の駅「寺子屋カ石」オープン



11月：「朝鮮通信使の足跡を辿る」 & 「ぶらっと彦根」



NPO Hikone Kikan Forum

12～3月：あきんど塾

「うっづ」くん

話し合う夢から始まる・まちづくり **NPO・彦根景観フォーラムに入会しませんか**

教員や学生、建築家、主婦、会社員、市民、商店主、公務員など、いろいろな人と知恵が集まります。

●定例ワークショップ 毎月第2水曜日午後7時～9時 滋賀大学陵水会館にて 年会費6,000円

●彦根景観フォーラム事務局 TEL 080-1416-5968/0749-27-1141 FAX 0749-27-1431

<http://www.h6.dion.ne.jp/~hikone/hikone2/index/html> e-mail: hikonekeikan@hotmail.com

●きらっと彦根 年4回発行 次号7月1日予定 発行/山崎一真 編集/堀部栄次



きらっと彦根

2006 4

彦根の魅力★再発見

うっつくん 彦根まちづくり情報誌 2006年4月10日 通巻4号 編集/発行：NPO法人 彦根景観フォーラム

—彦根の町家を生かしたまちづくり—

「世界の城下町彦根をめざして」

彦根景観フォーラム理事長 山崎一真 著



彦根景観フォーラムでは、彦根のまちづくりについての提言・「世界の城下町彦根をめざして」を発行しました。これは、2005年6～7月に開催した5回の公開講座「町家をいかす」の

最終回を収録したもので、右ページに文章、左ページに図や写真を入れ、わかりやすく彦根の歴史と文化を生かした、これからのまちづくりを提言しています。

花しょうぶ通り「街の駅」寺子屋カ石にて配布しています。(A5版、72ページ、資料代700円)

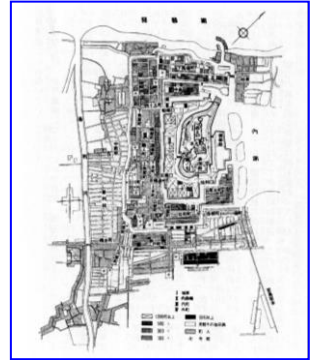
この小冊子では、彦根に散らばりながらも、かろうじて現存する古民家を、どう保存し利用・活用するのか12のステップで、まちづくりの実践を提言しています。

「楽しみながら自分のまちを知る」から始まり、寺子屋カ石のような「古民家の利・活用相談」、足軽屋敷を例にした「固有の景観を整える」取り組み、市内の8つのゾーンで古民家を活用した「まち博物館を創発する」、住民の人たちのまちづくり組織を「コーディネータとして支え・つなぐ」、「行政に提案し、協働する」まで、市民とNPO、行政が、一緒に彦根のまちづくりを進めてゆける具体的な方法を、実際に即して解説しています。

次の右の図は、江戸時代に彦根のまちが完成した時の図面です。左の写真は最近の航空写真です。これを見ると、彦根の都市の骨格はほとんど変わっていません。それだけでなく、城下町を構成する建物や街道などの要素がほぼそろって残っています。このような都市は日本にはもうないといわれており、彦根は「日本を代表する城下町」という



現代の航空写真



江戸期の彦根城下町

普遍的な価値を世界に示すことができる、きちんとまちづくりや学術調査を進めれば、世界遺産登録も夢ではないと述べています。

町家アンケートのお願い

町家は、現代人の求める機能や快適性を充分満たしていないという理由で、どんどん取り壊されています。数年前には1,000戸あった町家が現在は70%にまで減少しています。確かに不便で不合理な面があることは認めざるをえません。一方、あまりにも機能的、合理的に“住宅”をとらえるあまり、“すまい”が本来持っていた「ゆとり」や「心のよりどころ」という面が、おろそかにされているのも事実であり、古より生活の中に息づいてきた町家に魅力を感じる人が増えています。

しかし、いざ「すまう」ことを考えると、提示される選択肢は“全く現代的なもの”か、不便だけれど“懐古趣味的な古いもの”かしかありません。もう少し広い選択肢(本当に住む人にとって経済性からも文化的見地からも意義のあるものとして活用できること)が提供できないのでしょうか。

彦根景観フォーラムでは、市民の皆様にアンケートを実施し、町家の具体的なお困りごとの情報を提供いただき、共に知恵を出し合い、よりよい解決をはかり、彦根のまちが持つ潜在的“価値”を生かした“住んでよいまち”を実現していきたいと考えています。ぜひ御協力をお願いいたします。時期：H18年5～6月頃、方法：各戸配布 ※個人情報管理を充分考慮した方法で実施します。

提言：世界遺産をめざして
町家活用のしくみを
考える

連載 創造的修景を考える(4)
彦根城周辺の景観重点地域の修景
リレーエッセイ わたしの彦根

●お知らせ
彦根景観フォーラム・
この一年のあゆみ